

■ 軌道の老朽化対策の促進

○ 低床式車両の導入には、老朽化した軌道施設の改修等が必要となる。

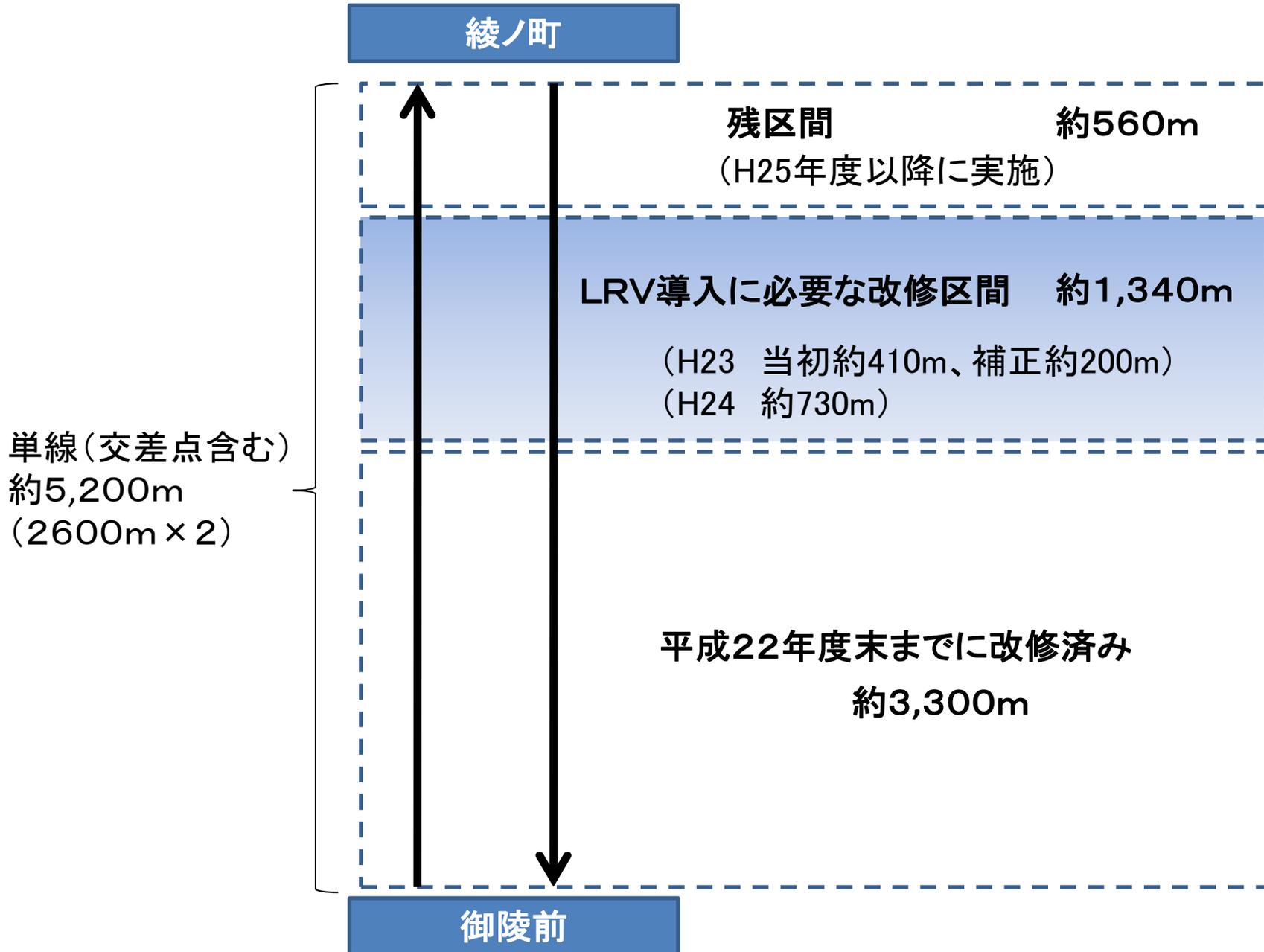


老朽化した軌道



整備された軌道

大道筋軌道改修状況



■低床式車両の概要

○導入目的

- ・人と環境にやさしい公共交通の充実（阪堺線のバリアフリー化）

○導入車両：未定

○導入編成数：1編成（支援策では3編成を提示しており、順次導入を図る予定）

○スケジュール（予定）

- ・平成23年度 車両設計（車両デザインについては、市民意見募集）
- ・平成24年度 車両製造
- ・平成25年度 運行開始

■8月議会

○予算要求内容

- ・老朽化対策（軌道改修）関連費用：7,800万円
- ・設計関連費用：1,900万円

(参考) 国内での低床式車両の導入状況について

平成23年10月1日現在

導入事業者	導入編成数	運行開始年
熊本市交通局	5編成、2編成	1997年、2009年
広島電鉄(株)	12編成、10編成	1999年、2005年
東京急行電鉄(株)	10編成	1999年
福井鉄道(株)	2編成	2000年
豊橋鉄道(株)	1編成、1編成	2000年、2008年
鹿児島市交通局	9編成、4編成	2002年、2007年
伊予鉄道(株)	10編成	2002年
土佐電気鉄道(株)	1編成	2002年
函館市交通局	1編成、2編成	2002年、2007年
岡山電気軌道(株)	1編成	2002年
万葉線(株)(高岡市)	6編成	2004年
長崎電気軌道(株)	3編成、1編成	2004年、2011年
富山ライトレール(株)(富山市)	7編成	2006年
富山市(富山地方鉄道(株))	3編成、1編成	2009年、2010年
14事業者(13都市)	92編成	—

■未導入

札幌市交通局、京阪電気鉄道(株)、京福電気鉄道(株)、阪堺電気軌道(株)